

夜間保育

平成29年

3月30日 発行
2016-④

発行責任 全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫
編集責任 大阪市東淀川区豊新3-25-5(社副)路交館内
全国夜間保育園連盟広報部 草場加奈子
電話 06-6321-3955 Eメール info@zenyahoren.jp

第28回全国夜間保育園経験交流研修会が、参加申し込み219名で、無事盛会のうちに終了しました。福岡市での大会は9年ぶり3回目、参加申し込みは前回よりも70名以上増えています。皆様のご協力に感謝いたします。

さて、夜間保育制度創設から35年が経過しました。この間、大会要綱にもある通り、いくつかの大きな課題が解決されました。更に、今回の子ども・子育て支援法の施行に伴い、これまで保育所の入所基準であった保護者の「昼間労働」は削除され、保護者の「月単位の労働時間の長さ」が新基準となりました(子ども・子育て支援法施行規則

第1条)。名実ともに、夜間保育は昼間保育と同等となったはずでした。しかし、現実はどうでしょうか。

平成27年4月1日の全国の待機児童は23,167人。その後半年で22,148人増加して、同年10月1日には45,315人に達しました。一方、27年3月31日現在、ベビーホテル利用児童数は32,523人。どちらも平成28

「ベビーホテル問題に関する対策」が表明されました。全国保育協議会、全国社会福祉協議会、全国保育園連絡会、自民党、社会党等です。56年、夜間保育と延長保育は、世論の後押しを背に、多様化する保育需要に対応するため創設されました。しかしその後はどうなったのか。認可夜間保育園は必要に達せず、現在でもベビーホテルは厳然として存在し、利用児

童数は待機児童数に見劣りしない数を誇示しています。保育園は、保育を必要としている子どもを預かる施設です。例えば親が病気の場合、即ちその子どもが保育を必要としている場合、保育園はその子どもを預かります。「親が病気であっても子どもが0歳児だから預からない」とは言わないはずです。(ちなみに、0歳児保育が一般化したのは平成

第28回全国夜間保育園経験交流研修会

―十年後の夜間保育を展望する―

変貌する社会の保育需要に的確に対応するため

全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫

年2月、3月に厚労省保育課から公表された数字です。昼間保育園の待機児童は国民の間で大問題となつていますが、数字的に見て、ベビーホテル利用数も大問題になつてもおかしくない数です。でも、今はそういった論議はまったく

ないのが現実です。昭和55年以降、ベビーホテル問題がマスクミで取り上げられるようになり、多くの団体、政党から

「親が病気であつても子どもが0歳児だから預からない」とは言わないはずです。(ちなみに、0歳児保育が一般化したのは平成

10年で、夜間保育が一般化した平成7年の3年後です。)ならば、夜間だからとか、日曜日だからとか、障害児だからとかの理由で預からないと言えるのでしょうか。すでに「昼間労働」は保育所の入所基準から削除され、「月単位の労働時間の長さ」が新基準となつています。

受け入れ態勢が整っていないのは、供給者サイドの問題です。でももちろんそれは大問題でもありません。「保育園の本来の姿は、保育を必要とする子どもであれば条件なしに(又は可能な限り)預かるのが原則で、保育園の受け入れ態勢の不備や設立理念等により預かれない場合もある」と考えるのは、飛躍しすぎでしょうか。ところで、当連盟創立当時は(そして実は今でも)全国に夜間保育の認可園そのものが少なく、夜間保育園の保育士たちは、地元近隣の昼間保育園の保育士たちとは、夜間保育特有の課題や悩みをなかなか共有できない実情があつたことから、初代会長である信ヶ原良文先生が「数少ない認可夜間保育園が一堂に会し、職員が普段から

抱えている共通の課題や悩みを存分に話し合い、経験者の言に耳を傾け交流する中から、明日からの夜間保育に関する解決策やヒントを見出して、新たな元気と共に持ち帰っていたきたい（今風に言えば、参加者の皆さんがエンパワメントして、又はエンパワメントするスキルを少しでも身につけて、帰っていただきたい）」と発言されたのをきっかけに、大会が『経験交流研修会』と命名された経緯があります。ですから「明日からももう少し頑張ってみようかな」と多くの参加者の皆さんが思っていただけなのなら、その大会は大成功だと言えるでしょう。今回初めて参加された分科会助言者の先生によると、分科会の熱気は相変わらずだったようで、参加者の先生たちの熱心に夜間保育に取り組む姿勢にいたく感動されていました。

今回のテーマは『10年後の夜間保育を展望する』でした。他団体の大会でも、同じような内容のものがありましたから、人の考える

ことは同じようです。「1年先が見えないのに、10年先が見えるか」というごもつともな意見もありましたが、「1年先が見えないから、もつと高みから遠望してみよう」と企画した次第です。ただ、実際には見えてきません。自園の課題はある程度把握していますが、連盟の課題となるとなかなか見えてきません。各園の置かれている状況が違いすぎるからです。今は「制度問題が一段落してこれから何を課題にするかが問われている」時期に来ていると言えるでしょう。

ともあれ、今大会が多くの参加者に恵まれ、行政関係、保育関係諸団体及び広告協賛各社（者）のご理解、ご支援も得て、無事盛会に終了したことに感謝いたしつつ、皆様にご報告申し上げます。



《開会式・行政説明報告》

平成29年2月11日、そして12日にかけて全国夜間保育園経験交流研修会が開催されました。当日は九州地方でも雪が降るほどの寒波に見舞われ、新幹線や高速道路などが遅延し、時間通りにはじめることはできませんでした

遅延の影響で、定刻を少し過ぎでの開会となりました。待ち時間にどろんこ保育園を題材にしたNHKのドキュメンタリー（72時間…三日間の密着取材の形式）報道、が流され、夜間保育の現状をありありと映していました。会場は、福岡市のキャナルシティ博多にあるグランハイアット福岡でした。チャンネルシティ博多はどろんこ保育園に隣接しており、博多一の繁華街天神や中洲にも近い大きな商業施設で、そのため夜遅くまで働いている親御さんも多く、夜間保育の需要の高さを感じさせるエリアになっています。

連盟会長の天久薫からは「開会の辞」で「子ども子育て支援新制度が施行されてから2年経ち、夜

間保育園についての認知度も少しずつ上がっており、具体的には施設型給付公定価格が残り、夜間保育事業が支給。入所基準から昼時間労働という文言が消えて、夜間労働に関する認知も高まっている。「すべての子ども、すべての子育て家庭に保育を」という基本理念に基づけば、夜間保育が必要な子には夜間保育を与えることが大事であるにも関わらず、ベビーホテルの対策不足、夜間保育園の絶対的な少なさという問題がある。さらに、夜間保育には昼間保育よりも高度な保育が必要なので、質の向上が大事だ」と述べました。

ご来賓の福岡市子育て支援部の重松勝俊様から「福岡市の支援施策の現状として、出生率低下、女性の社会進出、保育の需要増加などの対応に切迫している状況です。保護者の就労形態の多様化、それに対して保育ニーズも多様化していきます。それに対応するために、夜間保育園は必要だ」と力強いお言葉を、全国協議会会長万

田泰様からは「保育所の数は全国的に、今や郵便局よりも多くなっています。取り巻く地域などの環境が変わっても、子どもが安全で健やかな生活をできるように共に取り組んでいきたい」とのお言葉をいただきました。北九州市私立保育園連盟会長の橋原淳信先生はじめ、沢山のご来賓の皆さまに臨席を賜り、本当にありがとうございました。

その後、夜間保育園の功労者の方14名の表彰式が行われました。（表彰者一覧は後述）

《行政説明》

引き続き、厚生労働省の保育指導専門官、馬場耕一郎氏より行政説明が行われました。政府でも夜間保育に対する理解が進み、対策も進んできているそうです。その証拠に、子育て支援として1兆円を超える予算が掲示されています。財源の内訳としては消費税財源がほとんどです。そして、消費税増税分を財源としているのは子

ども子育て支援くらいしかあがっていないようです。これに伴い、保育料の無料化の枠の拡張も計画されています。

保育所の数としてはこども園も含めるとかなり上がっています。待機児童問題の解決にはまだまだ足りません。就業率と1、2歳児の利用者率には相関関係があり、就業率が上がるたびに1、2歳児の保育需要は上がっています。追いついていない状態です。保育園の枠の拡充、切れ目のない保育のための対策が必要となってきます。しかし、その為に確保すべき保育士が足りないのも現実です。実際、保育士の有効求人倍率が高すぎます。給与をあげる、資格の取りやすくするなどの保育士になりやすくするための総合対策。同時に処遇改善並びにキャリアアップにより、保育士の育成、質の強化もはかる。また、働きやすい環境をつくるために保育士の職務分担、専門性を強化した職制階層をとり入れる等の対策も考えられて

います。また、質の向上ということで保育所保育指針も新しくなっています。特に0、1、2歳児の保育の重要性を再認識されています。五領域の拡張10の姿など、事細かに分類することによってより子どもの達の成長に対して深い理解を示せるようにします。

それを反映し、画一的なものではなく成長に合わせた適切なクラス分けが必要とされています。また、子ども達を守る為に多くの傷病に対する知識正しい知識を学ぶことも推奨されています。SID Sの正しい知識と安全な午睡環境の確保や、アレルギーに対する正しい理解。

また、大怪我を防ぐ努力はしつつも、ある程度の怪我をすることを肯定し、医療関係との連携を密にすることも大事です。ニーズの多様化への対応、そして虐待に対しても記入されています。その為に、職員のキャリアアップが必要となっていくのです。子どもたちにとって、家庭保育はもちろん重要です。しかし私たち保育の仕事

というものは専門性の高い職ですねらいがある、指導計画のある、遊びを通しての学びへの接続、子どもたちの健やかな成長の為に保育の環境を整えることは、急務だと報告していただきました。

文責：広報部・道林 信郎
野町夜間保育園



《シンポジウム報告》

テーマ・10年後の夜間保育を展望する（変貌する社会の保育需要に的確に対応するために）

●シンポジスト

＊櫻井慶一氏（文科大学人間科学部教授）児童福祉全般の諸問題や、地域の保育所の歴史的研究、現実的な機能等の研究。近年は過疎地域の保育所や夜間保育所を中心とした研究や、障害児保育や公立保育所の地域社会における役割等を検討している。

＊安梅勅江氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）諸外国と共働しながら、子供からお年寄りまで、全ての人々を対象に、ケアの質の向上を目指し、個人や組織、地域の力を引き出すコミュニティ・エンパワメントのシステム作りに尽力している。

＊天久薫氏（全国夜間保育園連盟会長）福岡県福岡市博多区中洲で35年間深夜二時までの夜間保育を運営。子供の健康を考え、和食中心の玄米食を提供し続けてきた、夜間保育のレジェンド。

●コーディネーター

＊山懸文治氏（関西大学人間健康学部教授）児童養護施設の指導員時代に、家族や親族と一緒に生活できない子供たちの退所や退所後の支援に興味を持ち、現在は子供虐待、リービングケア、地域子育て支援などに携わる。

●はじめに山懸先生より、テーマについて、三人のシンポジストの先生方に「夜間保育園の現状分析」と「10年後の夜間保育」と大きく二つに分けて話していこうという提案が示される。

●櫻井慶一氏「ベビーホテルは、昭和56年頃から問題にされてきたが、施設数も利用者数も減っていない。現在、ベビーホテルを含めた認可外保育所は、全国で約8千ヶ所近くあり、約20万人の子供達が保育を受けている。事業所内保育所も全国4千5百ヶ所で約7万人。これだけの人数の子供が認可外施設の保育を受けている。又、認可保育所の保育時間が遅く

なり、夜間化してきている。ベビーホテルを利用して子供の数3万2千5百人に上り、現在、問題になっている待機児童の数2万3千523人を上回っている事にも、もっと目を向けるべき。これは「認可保育園所の絶対的な不足」が背景にあることは、言うまでもないと指摘された。

●安梅勅江氏「20年間の保育の効果を踏まえて、次の10年で何を考えるかということで、湧活（ゆうかつ・エンパワメント）に基づき、子供や保護者に「夢や希望を与え、勇気づけ、本来人間が持っている、生きる力を湧きださせる」ことが大切である。保育園の20年間の支援効果の実証として、園を利用する保護者のストレスが減り、子供を【たたく】回数が6〜7割減少。長い時間子供を預けることで余裕が生まれ、それ以外の限られた中で、子供との濃厚な時間を持ちたくなるという、人的な関わりも改善されている。保育園に預けている家庭に関しては、貧困の影響は

少ない。とのデータがある。幼児期に「自己効力感を育む支援」を受けた子供は、思春期の睡眠・生活満足感が大きな影響するという科学的根拠が示される。この「自己効力感を育む支援」とは、少し難しい課題に周りの友達と一緒に考え、工夫して取り組み達成するというもので、これにより『しなやかさ（物事に柔軟に対応し、前向きに生きていける能力）』を育む。夜間保育を受けた子供が、最も教育される事は『しなやかさ』を身につける事。保育士にも『しなやかさ』が必要不可欠である。」

●天久薫氏「福岡市で35年間『どろんこ保育園』を運営し、保育に携わってきた経験から、「保育園の力量」とは「保育時間をどこまで伸ばせるか」「保育対象児をどこまで広げられるか」「保育内容の充実・向上」にあるということをお話される。又、保育に欠ける児童は、保育所で保育を受けるだけでは幸せではない。家族から切り離された児童福祉の領域内だけ

で、子供が幸せになるはずがない。周りの家族の幸せがあつて、初めて子供の幸せがある。進化の過程では、突然変異と多様化が表れる。夜間保育も、進化する過程で、需要面でも施設面でも多様化するのではないか。そしてこれからは、保育所と社会的養護の間には保護者や子供が増えていくのではと考えている。又、企業主導型保育も今後増えていくことが予想される。そこから、夜間保育園と競合する需要が出てくる可能性もある。」

●山縣先生「天久先生の進化と突然変異の話から、夜間保育がベビーホテルを問題視した中で産まれた、保育所の突然変異として進化してきたとも言える。現在もいろんなニーズが生まれ、夜間保育園では対応できない現実もある。これを克服するには、今の夜間保育を拡充しそのニーズに対応していきたい。社会一般的な認識では、企業主導型保育事業は待機児対策としてのイメージだが、待機

児がいない地域で企業主導型保育は導入されてきている。これは、待機児対策ではない有効性があるということ。今の所は夜間保育については全く議論されていないが、そこにも企業主導型保育が進出してきた時、夜間保育連盟や個々の保育所は、自分たちが守っていくところと、変化すべきところをはっきり自覚し対応できるかが重要。それがなければ、企業主導型保育がどんどん広がって行く可能性があると、今後の夜間保育園が向き合う課題について話された。

文責：広報部 次田 正明
めぐみ第二幼保連携型
認定こども園



《交流セミナー》

開会式、表彰式、行政説明、シンポジウムの後、経験交流会のもうひとつの(最大の?)楽しみである交流セミナーの始まりです。会場内は屋外の寒さを忘れるほどの熱気であふれていました。

酒井義秀副会長の開会挨拶に続き、来賓の福岡市保育協会・古賀貞雄理事長にご祝辞、神岳保育園理事長で、福岡私保連会長の酒井光義氏による乾杯と、酒井初恵先生の名司会でなごやかに楽しく進んでいきました。おいしい料理を

味わい、情報交換など会話を楽しみ、親睦を深めていると軽やかなカントリウエスタンの調べが：なんと我が連盟の副会長酒井義秀先生の姿がメンバーにいます。ありませんか!!ダンディな酒井先生を擁する「ジュリービーンズ」のメンバーの素晴らしい歌声と演奏に加えてダンサーの方々の登場で大盛り上がり、交流セミナー参加者も一緒に軽快なステップを披露。大トリは参加チケットのナンバーで大当たりが出る抽選会、次々と当たる人たちに笑顔が増えています。そろそろ景品も終わ

りかな?というころ、豪華賞品付きの会長賞・副会長賞登場で、会場の熱気は最高潮に、今話題の「ネジチョコ」もいただき、感激!!さらに副賞で安梅先生から、今すぐ保育に活用できる「いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学」の本のプレゼント。

楽しい時間は、瞬く間に過ぎ、名残りを惜しみつつ、花鶴どろんご保育園の天久真吾副園長の音頭による博多一本締めで盛会裏に終わりました。

ご多忙の中、午後からの研修会に引き続き沢山のご来賓・講師の方々にご参加いただきました。本当にありがとうございます。この素晴らしい交流セミナーを企画、準備、進行をしていただいた福岡の夜間保育園のスタッフの先生方、の御尽力とあたたかい心に感謝いたします。お蔭で心に残る有意義な時を過ごさせていただきました。

文責：広報部・こぼと夜間保育園
橋本 達

《第1分科会》

新制度と10年後の夜間保育園

助言者…関西大学人間健康学部

教授 山縣文治先生

発題…全国夜間保育園連盟

会長 天久薫先生

営について

*子どもが減少傾向にある園と拡大傾向にある園とそれぞれである。

*減少傾向にある園の近辺にはベビーホテルがあるという矛盾もあるが、利用者は今すぐに預けたいのでベビーホテルを利用している。

*県全体の出生率が減っているの
で定員割れに繋がっている。

*午前2時以降まで預けたい利用者
者がいるので、24時間開所を考
えている

②保育士確保の問題

*高校生のボランティア、アルバイトを意図的に行い、早い段階での人材確保を行っている。ボランティアやアルバイトを経験し、保育の仕事を理解して就職してくれるので、現場も助かっている。

*職員の子どもは、自園に入所する
ようにし、出産、育児による
離職を少なくしている。

*子育て中は、深夜の時間の勤務
からは外すようにしている。

*深夜の勤務に対しては、保育士

への配慮や工夫が必要。深夜の勤務を10年に1サイクルとし、長く勤められるようには意識を
しているが、その通りに実行でき
てはいない。

*ベビーホテルに直接訪問する。
経営している園長と密に交流を
し、一緒に働かないかと尋ね、
現在一緒に働いている。また、
ベビーホテルを利用していた園
児たちも一緒に入所したので、
園児の確保もできた。

③保護者支援の工夫のしかた
（今回は話し合いの時間が足りず、
意見交換をすることができません
でした。）

④保育所保育指針改定について
*夜間保育に配慮した事項がある
べきではないだろうか。

*保育はチームで行なっていくも
のなので、保育士等の等に含ま
れる人達との関わりや連携が子
ども達に大切になってくる。

⑤認定こども園という制度を夜間
保育園としてどうとらえるか
《認定こども園に移行した園》

*職員の意識が変わり、保育士の
質の向上に繋がったので移行し
て良かったと感じている。

*自治体の施策により、夜間保育
園であっても、1号認定を確保
しないと経営が厳しくなった。
1号認定を増やす事で経営がや

で、第1章の総則に載せられる事

となった。養護と教育の一体化と
いう事が薄れていく可能性もあ
る。これから養成校で学ぶ学生は、
特に分離した形で覚えてくるとい
う事を頭に入れておいて欲しい。

また、安梅先生という強い味方が
いるので、少なくとも、第2章の
保育の内容について夜間独自の解
説書を現場の保育士と園の事例を
交えながら1、2年かけて意見交
換をし、夜間保育園連盟で作っ
てみてはいかかだろうか。

*連盟では新たに研修部を作っ
た。全体の研修会だけでなく、
細分の研修会を今後行っていけ
たらと感じている。

⑤認定こども園という制度を夜間
保育園としてどうとらえるか
《認定こども園に移行した園》

*職員の意識が変わり、保育士の
質の向上に繋がったので移行し
て良かったと感じている。

*自治体の施策により、夜間保育
園であっても、1号認定を確保
しないと経営が厳しくなった。
1号認定を増やす事で経営がや

①入所ニーズ予測…子どもが減
少している現実と夜間保育園の経

②入所ニーズ予測…子どもが減
少している現実と夜間保育園の経

●意見交換

基に意見交換を行いたいの提案
があり意見交換に移りました。

①入所ニーズ予測…子どもが減
少している現実と夜間保育園の経

りやすくなるのではと思う。

*資料作成などで大変な部分があった。

*自治体より、夜間保育所なので、1号認定をしないで欲しいと言われた

*教育時間を午前中の時間に設定したいと思っているが、市から夜間保育所は、11:00～22:00の開所と言われるので、午前中の時間に教育時間を設定する事が出来ず困っている。

《まとめ》

山縣先生から投げかけられたすべての課題についての意見交換をすることは出来なかったが、各園の取り組みや、夜間保育に対する熱い想いが、一人ひとりの先生から伝わった。自治体により、保育に対する姿勢は異なるが、ニーズに応じたより良い方法を見つけ取り組んでいく事が大切であると感じた。

報告：熊本禎子、宮下輝

小倉北ふれあい保育所（夜間部）



《第2分科会》

保育の質の向上について

●助言者：門田理世先生

西南学院人間科学部教授

●発題①：佐世保ステーション保育園（赤波江先生、川本先生）

《保育の質と、保育者の質》

個人での目標設定について、長期目標（3年後にこうなりたい）と短期目標（長期目標達成のための具体的な目標）を各個人で定める。自己分析シートや振り返りシートを活用したりして目標達成に向け、保育士の意識を高める。また、子ども理解を深めるために、話し合いの機会を大切にしている。多くの話し合いの機会を取り、活発な意見交換を図ることで、意欲的な実践につなげていく。話し合いでの3つの約束として、あまり難しく考えず、沢山の意見やアイデアを出すこと、ひとの意見をすぐに否定しないこと、意見

は簡潔に、まとめてわかりやすくを定める。少人数の話し合いから、年齢を問わずに意見を言えること、様々な視点からの意見を取り入れることで、活発な意見交換の場となり、子ども理解を深める機会として有意義な話し合いとなる。また、提案が反映されやすい風土は一人一人のモチベーションの向上に繋がり、結果として保育内容にも良い影響がもたらされる。

今後の課題として、目標達成が難しい職員の意識を高める為に園内研修の充実などがあげられる。

●発題②：島地シテイ保育園（宮本先生・鶴川先生）

《コーナー遊びの環境設定》

現状把握（保育内容、子どもの様子）、課題の発見から、遊びを充実させる為に、ねらいとする子ども像に向けて遊びの環境を見直し、5つのコーナー遊びを導入する。その後もコーナー遊びの功罪

《1日目》

天久会長より大会挨拶



ご来賓祝辞



開会式 ご来賓の方々



ご来賓祝辞

8回！ 夜間保育園 交流研修会 福岡

会は保護者



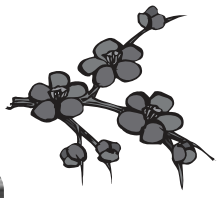
会長表彰・永年勤続表彰



会長表彰・永年勤続表彰

〈交流セシナー〉

夜間保育 (全国夜間保育園連盟 機関誌) 2017年3月



第2 全国夜間 経験交流 in



じゃんけん大会!
会長賞の行方は?



開会式司会



熊本震災
益城町応援メッセージ



お開きは、博多一本締め



《2日目》

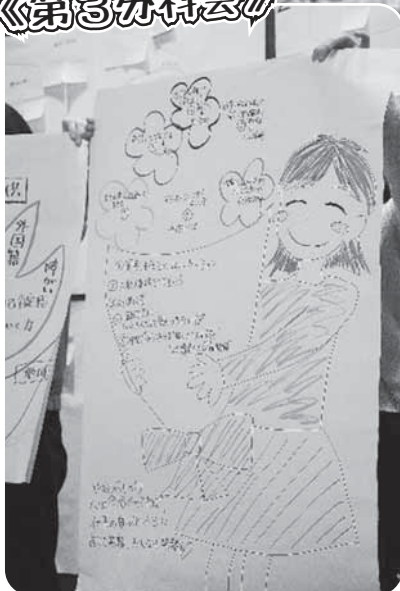
《第3分科会》



《第1分科会》



《第3分科会》



《第4分科会》



会場のどろんこ保育園

《第2分科会》



《第4分科会》



《第2分科会》



《分科会》

真剣な
討論が

全体報告会・報告者の方々



閉会式会場は
参加者でいっぱい。



スタッフの皆さま、ご苦労様でした

(第2分科会つづき)

について分析・改良を重ねている。今後の課題として、年間を通じた計画や、遊びの発展性・連続性があげられる。

●門田先生より助言・経験の連続性をどのスパンで考えるべきか、6年間保育園で過ごすことを過程に、保育理念に照らし合わせて遊びの連続性を考えていく。その上で、もつとよくなるかも」というさらなる向上を目指し、良い意味での、終わらない保育”を目指していくことが大切である。

●発題③第二どろんこ夜間保育園 (吉武先生)

《担任一年目の奮闘》

子どものトラブル、保護者対応、事務、保育士間の連携…、頭を悩ますことは多くある。ましてや、初めての担任ということ、たくさんさんの悩みや葛藤で、ついにいっぱいいっぱいになってしまった先

生は、ふとしたきっかけで、主任の先生に相談することに至る…それから試行錯誤の一年間が始まる。個別の援助が必要な子どもへの支援、月一回の「レストランごっこ」や、保護者と子ども双方への働きかけ「いいねのはっぱ」など、クラスでの取り組みを紹介しながら試行錯誤の日々や子どもの育ちを共有する。

●門田先生より助言…3園の発題から見出した共通項は、アウトプットの重要性である。保育は孤独か? 「わたし困っています」 SOS 出せるひとが職場にいるか? もちろん保育の知識や自己分析も大事なことだが、まずは思いを言語化し、相手の意見を傾聴し、話し合うこと、そして共有していくことが、子ども理解や保育の質向上の近道である。

《グループディスカッション》

*11グループ各6名に分かれて交

流する。午前中は物的環境について環境構成をする際、①子どもが自ら遊ぶ為に工夫していること、子ども自身が主体的に遊べるように、②子どもの発達段階を支える為に工夫していること、についてグループで話し、共通している項を見つけていった。午後のディスカッションでは、人的環境『やりがいや充実感を感じる時、保育者を環境の一部と考えると』についてグループで話した。

●門田先生より助言 子どもの主体性を支える為には、保育者の専門性が重要視される。私たち「保育士」は、子どもをただ「かわいから、せつせと、子守」をしてい

るのではない。私たちが常日頃している、即興的判断や、発達の連続性を見据えた環境構成や関わりは、保育士の専門性といえる。

《まとめ》

いま何が求められるのか、なぜ

この子は笑顔になったのか…と保育は教育とは異なり、プロセス・過程を重要視する。『認知力』(記憶・分析・評価・応用…)は、6歳までに様々な経験・体験を通して培った『非認知力』(忍耐や持続力、他者との関わり…)の土台の上で開花することが出来る。このことから6歳までに関わる大人の重要性は大きい。保育の質の向上において必要なものは、専門性の向上(保育実践研究)からだけでなく、保育士の力だけではどうにもならないもの(制度や政策)もある。制度と保育の質は直結している面もある。

今こそ保育士不足と叫ばれるが、今後一年に80万人もの人口が減っていく、高齢化社会に一層拍車がかかる中、保育の重要性を考え、今後の保育について考える有意義な時間となりました。

報告…最所 朋子

第2どろんこ夜間保育園

《第3分科会》

『研究と保育実践をつなぐ』

子育ち・子育てエンパワメントー
夜間保育の「強み」を「見える化」
するプロ技術ー

●助言者…安梅勅江先生

筑波大学大学院人間

総合科学研究科教授

シンポジウム、事前アンケート
により「根拠に基づくチーム
ワーク効果の見える化 花束を君
に ワークシヨップ」の方向性の
提案がありました。

●実践発表①第2どろんこ夜間保
育園
「チームワークと保育実践」

園の概要、保育の質の向上に向け
ての取り組み等の課題と現状を職
員で共有し、課題に取組み、工夫
し、子どもや保護者がより良い保
育の中で生活できるように実践の
過程と成果を発表。

●実践発表②小倉北ふれあい保育
所（夜間部）

「根拠に基づく保育実践と研究

」17年間の実践と研究」

園の概要と特徴、夜間に及ぶ長
時間保育実践の課題、保育の質の
向上に向けた取り組み、夜間保育
所が「説明責任」を果たすため
に、17年間の保育環境評価ツール
とデータ等を数値化し、そのなか
ら見えた開所当時の課題や園の強
みに職員の所内研修で共有し学び
合い、地域、保護者とともに取り
組んでいったことで保育の質の向
上につながっていった。

●ワークシヨップ

【根拠に基づくチームワーク効果
の見える化く花束を君に】

テーマを決め、目指す姿を設定
し模造紙に夢の花束を描き、参加
者全員でフィードバックを【(S)
ポイント・すごいね(C)ポイン
ト・工夫できるね】していきまし
た。各チームのテーマとして「保
育士に安定して仕事を継続しても
らう」「子育てが楽しいと保護者
に思ってもらえる」「保育士が毎
日、元気に働けるには」「子ども
と親に対しての支援保護者支援」

ゆとりをもった時間の使い方を手
助けできるように」「保育者か
ら元気に」「子どもの発達、成長」

「子どもと保護者の幸せ」「ハピネ
ス」外国籍の方や日本人も楽しめ
るように」「子どもが自分で自
由に活動できる保育をすること、
保護者支援」が示されました。

午後からは、花束を贈りたい対
象を想定し、受け取るかどうかのよう
に変わるのかをイメージするワー
クシヨップでした。一番花束を贈
りたい人は「子ども」「母親」「保
護者」「職員」「地域」「地域」「行
政」「元気な保育者集団」等があ
りました。受け取るかどうかのよう
に変わるかでは、「落ち着いた生活
が送れる」「心に余裕ができてく
る。子育てに自信がもてるように
なる。子どもと一緒にいることが
楽しくなる。」「視野が広がる」「園
のことが知ってもらえる。子ども
と触れ合える機会ができる。元気
になる。」「発達、情緒の安定、自
己肯定感が高まる、しなやかに生
きていく力がつく」「自分に自信
がもてる、やる気がでる、保育が

楽しくなっていく、保育士のスキ
ルアップ」「地域の人たちとのつ
ながり、住みよい街づくり、みん
なが自己肯定感を持つことで犯罪
が減る素敵な街作り、中高生の職
場体験により雇用にもつながる」
等がありました。

RKB放送局が取材に來られ、
夜間保育について知ってもらおう良
い機会となりました。

●安梅勅江先生の助言として、第
2どろんこ夜間保育園からは、質
的評価指標が示され、小倉北ふれ
あい保育所（夜間部）からは、量
的な数値変化の傾向の評価指標が
示されており両方が必要ですとの
御教示をいただきました。

ワークシヨップでは、自園で実
践することで新任保育士が言えな
いことや気付かないことが出てき
たり、言いやすかったりと楽しみ
ながら評価指標を立てることがで
きました。

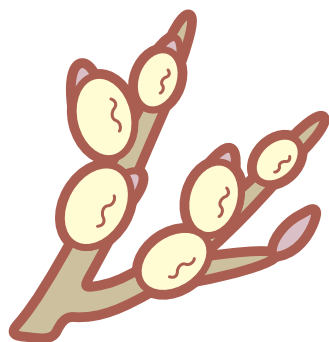
今回の分科会を体験することに
よって、知恵を出し合うことで自
分のしている保育がより良いもの

になるということや「見える化」することで自分の保育のすばらしさを感じることができました。

「子どもや保護者へ花束を」と始まったワークシヨップが、地域や行政、社会まで発信していきこうという考えに繋がっていき、保育士の視点が広がっていききました。湧活(エンパワメント)という言葉を知り、自分自身の力に気づき、仲間と協力し知恵を出し合って、保育を見直し、地域に発信していきこうというプロセスやものの考え方を学ぶことができました。

報告・野田・森尾・松岡

小倉北ふれあい保育所(夜間部)



《第4分科会》

「調理員は今後、保育と

どうかかわるか」

●助言者・大村美智子先生

北九州市保健福祉局

食育・栄養改善担当 課長

●発題①小倉北ふれあい保育所

食に対する考え方(かかわり・環境)

①文化的で丁寧な食事。

0歳児から変わらない手順で食べることで順序性を学び見通しを持つて生活出来ることで、主体性を育んでいる。個々の発達・健康状態に応じた食器の工夫。配膳時間は、2時間程度幅を持たせ温かいものを提供している。配膳は給食室がしている、配膳を行うことで食事の様子を見ることに繋がっている。

②食育・食に触れる体験を積み

3色ボードの活用、食材の産地記名、食材の提示など保育士と連携を取りながら行っている。

③親子での食育体験・地域未就

園児対象の離乳食試食会、食事

の悩み相談、保護者への給食だ

より配布、給食試食会など

④日本の伝統・地域性を活かす。

市場へ買い物等

離乳食会議、給食会議、職員全

体会議と3種類の会議を毎月

行っており、離乳食の形態、食

材のチェックや月齢にあった食

器の検討、保育室、給食室の意

見交換している。また、職員全

体会議では、給食に関すること

だけでなく、保育に関すること

も参加することによって、職

種を超えた理解につながってい

る。職員全体での研修の成果と

して、「学びんで欲しいから、学

びたい私へ」意識が変わった。

●発題②・豊新聖愛園の取り組み

①子どもたちの楽しみになる

給食、食育活動

*子どもたちの目線に立った給

食・食育活動の取り組み。長時

間保育なので、家庭でなかなか

体験ができないものを取り入れ

る栽培活動、クッキング、旬の食材を見る・触る

*日々の生活との繋がりが取組みにする。毎日食べている食材でクッキング、クッキングのための栽培活動、枝豆の半分は大豆にし、味噌や、豆腐を作る。

*クラス・年齢別の繋がりが活動を取り入れる。例えば、カレックッキングでは、皮むき、具材切り、お米とぎ、買い出しなど、各学年毎に出来ることを行い、みんなで作り上げる

*食べるということは、「命を戴いている」という事を知る。栽培活動では、気温の変化などで育たない時、「お野菜とのお別れ会」などで伝えた。

*子どもたちと一緒に給食を食べる。年長児が給食室を見学する。作る側と食べる側が身近な存在になり「子どもたちに合った給食なのか、向上、改善出来ることはないか等、自分たちで感じ対応できている。

*保育士との連携やコミュニケー

シヨンを積極的に取る。互いに連携を取りながら食育計画を給食室が中心になつて立てている。以上2ヶ園の創意工夫された取り組みの発表がありました。

●大村先生の助言

「子どもの食育と栄養指導」というテーマ。助言の柱は、アレルギーと肥満についてで、アレルギーの、最優先事項は、安全の担保で医師の指示は必須、ヒューマンエラーを起こさないためにも複雑な対応をしないこと。除去食の可否は医師の助言を受けて対応するようにとのアドバイスでした。肥満は幼児期前半から形成が始まり、朝食の欠食率が高いほど肥満につながる。保護者への啓発が大切というお話でした。

●グループディスカッション

2つの柱に分けて話し合い様々な意見交換をした。

柱①:「調理員と保育士とのかわり方」について

風通しが良くなる事、その為には、日ごろから他愛のない会話をたくさんし、仕事の話をしやすくする。お互いが1日入れ替わり、体験してみる。同じ土俵に立つて大変さを共有する。

柱②:「調理員と家庭の関わり方」について

子育てに必要な情報を発信すること、好き嫌いやアレルギーなどに意識の薄い保護者に対しては特に掲示物の発信や、先に述べた保育士との連携によって保護者に対して食事に関する助言がしやすくなる。

皆さん、それぞれ溢れる思いがあるようで熱意にあふれ活気のあるディスカッションでした。

報告:岸本 彩 どんこ保育園

《2016年度 全国夜間保育園連盟 表彰者》(敬称略)

★表彰を受けられた皆さま、おめでとうございます。

●夜間保育功労表彰

*枝本 信一郎

(大阪府 認定こども園あすなろ)

●夜間保育園連盟会長表彰

*伊藤 恵子

(神奈川県 けいわ星の子保育園)

*道林 佳美

(石川県 野町夜間保育園)

*宮崎 勝宣

(大阪府 保育所豊新聖愛園)

●永年勤続表彰

*柴 智恵子

(神奈川県 けいわ星の子保育園)

*大牧 将志

(神奈川県 けいわ星の子保育園)

*米澤 景子

(石川県 野町夜間保育園)

*大屋 弥穂

(大阪府 保育所豊新聖愛園)

*関 美沙子
(大阪府 保育所豊新聖愛園)

*福森 重子

(大阪府 認定こども園あすなろ)

*河野 裕樹

(大阪府 認定こども園あすなろ)

*松岡 純加

(福岡県 小倉北ふれあい保育所)

(夜間部)

*岡 菜由

(福岡県 小倉北ふれあい保育所)

(夜間部)

*平山 須美子

(佐世保ステーション保育園)



事務局報告

三寒四温とはよく言ったもので、雪の福岡で研修会を終えた直後はほかほか陽気となり、子ども達と外遊びで汗したかと思えばまた冷え込み、こうやって少しずつ春に近づいているのでしょうか。

今年度の全国夜間保育園経験交流研修会は、福岡での開催に全国から200名超の皆様をお迎えし、盛大に開催することが出来ました。皆様の熱心な姿に、来賓、講師の先生方からも「夜間保育の人たちは熱いね!」とのお言葉を頂いたほどです。参加された方々からも「同じような課題を持つ人たちと話ができてスッキリできた」「夜間保育の重要性を改めて認識し、やる気が沸いた」「楽しかった」とのお声を頂戴し、研修を担って頂いた先生方に感謝申し上げます。事務局として何かと行き届かない部分が多く、多々ご迷

惑をおかけしましたが、参加いただいた全ての皆様のご配慮のおかげでスムーズに進行され、盛会に開催されましたこと、改めて御礼申し上げます。

さて、平成29年度はいよいよ改定された保育所保育指針が示されます。今回は、新制度が施行されて初めての保育所保育指針の改定となります。今後は更に保育の質の向上、職員の資質・専門性の向上が求められます。夜間保育特有の専門性や課題を共有する場として、経験交流研修会が重要な役割を担う事でしょう。また、シンポジウムでもありましたように夜間保育に特化した解説書の作成についても検討課題として、研修機会の充実が図られることと存じます。制度のスピードと皆様のパワーに、後れを取りつつも置いて行かれないよう奮励努力して参りたいと存じますので、ご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

げます。

一日の大半の時間、生活を共にしてきた卒園児を送り出し、新入園児を迎え入れる準備に慌ただしい時期となりました。もうすぐ始まる新しい生活が素晴らしいものになるよう、また春風とともに皆様にお幸せが訪れますよう、心からお祈り申し上げます。

全国夜間保育園連盟事務局

桑原 静香

編集後記

今年も経験交流研修会が盛大のうちを終りました。

全国からのお仲間を1年ぶりに迎え、充実した研修会になりました。

連休でもありましたので、私の園ではまたと無い全員参加が実現できました。研修費の事を考えながらも『清水の舞台から飛び降り』ました。これまでは研修会での学び・気づきを持ち帰り、報告する職員と報告を受ける職員にどうしても温度差を感じていましたが、今年のは行き帰りの新幹線の中でも各部会の話や他園の職員さんとの出会いで得た話などで盛り上がりました。

そして、明日からの保育に少し希望が持てたかのように一人ひとりの顔が輝いて見えました。先生方の園では、いかがでしたか？

草場 加奈子



【投稿】

《今日、私は夜間保育所を

卒業します》

1984年、夜間保育所立ち上げた頃、子どもたちが寝る時間いんなお話ををしていました。子どもたちのお話に入りのお話し。森の保育園の続きです。

「今日は、森の保育園の卒園式です。みみずく園長が門の外でお出迎え。『やあ、おはよう!』おひさまが森一番の楡の木の上に来てみみずく園長はいつも『おはよう』です。『へんなの!』もお昼過ぎたのにつて、ボクは思う。ボクは今日卒園します。いつもは夜お仕事してるイタチ父さんや野ネズミ母さん、モモンガ母さん、あつ!ボクの母さんもいるよ。えーと、ボクはやまね健太郎。園長先生のお話が始まった。長いし、難しいねん:」『みなさん卒園おめでとう(長いので中略)森の保育園にはいろんな動物がいます。空飛ぶ鳥も、地を這うトカゲも、みんな一生懸命働いて生きています。鳥も魚も動物も、みんな違うけどみんな素晴らしいですネ。森の保育園は夜間保育園です。本来、生き物は殆どが夜行性

で、移動の時や餌をとる時、子どもに狩りを教える時も、活動は夜でした。しかし、人間と人間の飼育する動物が昼間に活動するため、社会全体が日中に活動するようになり、学校も幼稚園も保育所もそれに合わせて昼間になりました。働く人は、昼も夜も働いているのに、昼の保育所が良くて、夜はアカンという社会はどこかいびつです。子どもはどんな時代も宝なんです。みみずく園長の話が終わりました。

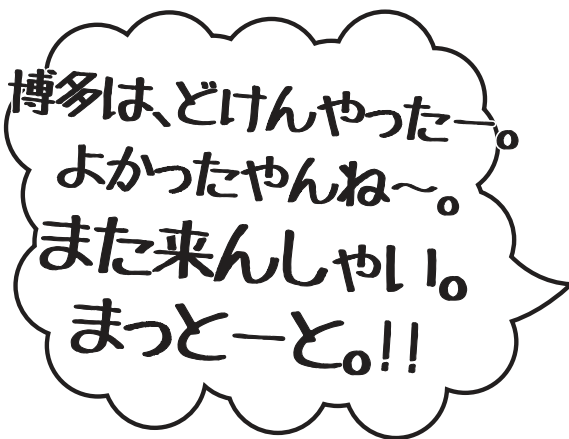
【なあ、やっぱ長いやろ、でも夜働いているボクのお父ちゃんもお母ちゃんもカッコイイで!】卒園式の終わりにヤモリ先生が、話し始めました。『今日、私も森の保育園を卒園します。長い間、支えていたでいてありがとうございまして。子どもたちがいたから、今の私があります。私は、夜間保育園が大好きです。いつまでも、いつまでも森の夜間保育園が続きますように。ずっと、ずっと見守っています。』

卒園児退場!ボクの名前が呼ばれました。『やまね健太郎くん』『ハイ!』ボクは思い切り大きな声で返事して立ち上がりました。子どもたちが大人になったと

き、夜間保育所は、日本は、世界は、地球は:どうなっているのでしょうか?地球温暖化・大気汚染・原発の再崩壊・南海大震災・大恐慌:

でもきつと大丈夫!! 世界中の大人が知恵を絞り、限りある資源を有効利用して、労働をシェアし福祉相互扶助社会を形成、空いた時間に、子どもと一緒に野菜を育て、そして食べる。山に木を植え、山菜を摘み、鶏を飼う。空気は澄み、海は青い。川には小鮒が群れ、田圃には田螺。私たちはこの美しい地球をあなた達に繋ぎます。夜間保育はどうなったん?まあええやんかケセラセラや!

岡戸淳子・前事務局担当
認定こども園 あすなる



全国夜間保育園連盟
《児童福祉週間》の取り組み
★「児童福祉週間」とは、毎年5月5日の「子どもの日」から1週間のことで、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的とした取り組みです。
平成29年度児童福祉週間標語は《できること たくさんあるよ きみのてに》です。
当連盟でも全ての子どもへの健やかな育ちを応援しています。